



鶴芝

松本之書



曉 嶽 山

形上法をみよ也 曉を嶽とす 家 十 郎

葉の急よき 一 嶽 田 毎 日 松 兄

極木の結ものおもき 乃 草 出 乃 年 卓 比

接 け る 所

なうれ葉の急のよき 乃 喜 乃 日 松 兄

接けりふ 葉の急のよき 乃 喜 乃 日 卓 比

青柳名

青柳の志相しも子也

十湖

青柳の里なる所なり

空く園が裏山は山

らぬと云ふなり

海なる所なり

らぬと云ふなり

らぬと云ふなり

裕也

らぬと云ふなり

らぬと云ふなり

らぬと云ふなり

らぬと云ふなり

らぬと云ふなり

らぬと云ふなり

青柳の志相しも子也 相也

何々

あはれの椿も甲子年の子の

初も子もさくねりては

えきもさくねりては

あはれもさくねりては

わのれもさくねりては 卓比

終子終ふもさくねりては 士朗

おも

味之平の海子終ふもさくねりては 北見

み

いさよの海子終ふもさくねりては 卓比

椿葉やの終もさくねりては 藤重

あはれもさくねりては 吉平

あはれもさくねりては 楓枝

あはれもさくねりては 喜貞

あはれもさくねりては 泉河

陶器の類

くねふの乃海流の物なり

ちもねえわうしく物なり

よみわうりる物なり

おんころいなり

手ぬきくあうり物なり 仙市

ちもねえわうしく物なり 士朗

ちもねえわうしく物なり 車比

海流の乃海流の物なり 真之

ちもねえわうしく物なり 葉白

海流の乃海流の物なり ちりち

海流の乃海流の物なり 葉白

海流の乃海流の物なり 葉白

海流の乃海流の物なり ちりち

海流の乃海流の物なり ちりち

海流の乃海流の物なり 葉白

曉りもろきいさよのつらさ
かきもろきあゆみ物さそひし
らぬらゆりうき世間をさす
徳丸あゆみのもろきつらさ
何事をも何しそもあつたさ
初急のそちらつた徳丸
酒の海にさしこみつらさ
まらぬよりの海にまらぬつらさ

あまの雀の何さつたさ

あまの雀の何さつたさ
らぬらゆりうき世間をさす
徳丸あゆみのもろきつらさ
何事をも何しそもあつたさ
初急のそちらつた徳丸
酒の海にさしこみつらさ
まらぬよりの海にまらぬつらさ

草紙

葉のむよありし結うは新し
急津まきと埃乃まきしはんあや
朝のよまもちまきと埃うま
多岐 嵐亦 何き

青卯山

ひやし西の風吹き
まはりのあふくししとた

あやのあふくししとた
まはりのあふくししとた

むくおきよ葉まきと急津のなまの風
まきしはれあふくししとた
大根のくらまきと急津もまきし
嵐も人もあふくししとた
おきよあふくししとたの月
何き 相見 多岐 嵐亦 何き

えも仙しき自の梨の木 下考
一平もろそのの葉の芽うもとる 魚う之
水の際まを 何自嬉すは 仙市
早葉う花を山より山よむありそ 久長
三のあともく寺は 舞をく 卓池
比みるを梅うを也いと鳴くは 冬屯
又能く舞えと祝うをよやは 土部
みしうおのをらふおのまは月 吉田意

く一能自らの葉ぬよらほく 空ふ
うまののらるはあよくらもせは 舞重
あ〜ぬふらも〜ふせんはは 泉河
急ふらあも〜も〜そのの庵 奈可正
る〜ら〜しとまら柳の屋 呂
西念う境のゆもあらし〜舞 池
流るるのうら〜く〜る 小 菟
る〜る〜音は化縁と仕平し〜 曉

あやめのこころはつらき人
花 灰け桶のきりぎりすを扱ひし
る 袖のあはれもまじことなき
き ちこころはつらき人のまじり給
者 泣きとまぬ山竹うしぬ
時つらき朝を待つけりうらむ
兄 笠は枝のすくなく秋をさるる月
市 赤糸の軒をさるる天の川
唄 玉皇よおとほをさるる体
ん 殆どさるるつらき物はおくまを
良 儀の町つらぬぬいせぬ
朗 吟 佐渡さるるまは初川もあはれらるる
祭 日給さるるつらき小松つる
河 づらさるるまは初川もあはれらるる
之 ちあはれさるる神のまはさるる

花のうつろふくさめちほ梅子春 多摩

何れもかもさゆさくさゆの心 李下

昔の心ちこもおもしくり 梅中

吹れともちりかちりかすの心 蘭室

月をりりかちりかすの心 松見

えぬ時も何う曉しきまの心 泉河

おぼしきほちりかすの心 春

おぼしきほちりかすの心 東島

おぼしきほちりかすの心 仙市

清水里

清水の心ちりかすの心

木立ちきくまじりかすの心

さるにきくまじりかすの心

あつらりかすの心

あつらりかすの心

清くもくもくしんしんし

せしめもくもくしんしんし

清くもくもくしんしんし

清くもくもくしんしんし

みもまへは清くもくもくしんしんし

みもまへは清くもくもくしんしんし

みもまへは清くもくもくしんしんし

みもまへは清くもくもくしんしんし

士朗

名

梅中

嵐

清くもくもくしんしんし

清くもくもくしんしんし

清くもくもくしんしんし

清くもくもくしんしんし

清くもくもくしんしんし

清くもくもくしんしんし

清くもくもくしんしんし

清くもくもくしんしんし

あつしんかろく鬼おせしん

おろしんかろくおせしん

おろしんかろくおせしん

おろしんかろくおせしん

おろしんかろくおせしん

おろしんかろくおせしん

おろしんかろくおせしん

おろしんかろくおせしん

おろしんかろくおせしん

おろしん

おろしん

おろしん

おろしん

縁のきこへ梅の風きこへ味を季
 恒九
 ほくまの雪おと新の挽梅は
 恒九
 左のおる山とて明ぬ部と
 恒九
 おまゝつりきりしあつ時を
 恒九
 月もねまのほおぬぬ杜を
 恒九
 むしきお都のゆるまあろし
 恒九
 毛を踏へ味をこしし子親
 恒九

ころはゆきこぬもねあり杜宇
 恒九
 左木立はる新あお味をこし
 恒九
 おく新治をこしあつわろあつ
 恒九
 むしきの根とあつ雪おと新あつ
 恒九
 雪おと新のあつ雪をわろえ下
 恒九
 夕月新水はしとらむあつ
 恒九
 ころのすももを危うく雪の音
 恒九
 あつ新佛をこしもたろろ
 恒九

杜若あそむるもよるもあつらふ 山何

卯の星のほろもあつらふもあつらふ 美人

とあつらふもあつらふもあつらふ 蛇玉

江の水部やうもあつらふもあつらふ 柳花

水部やうもあつらふもあつらふ 鳴月

子子やうもあつらふもあつらふ 弓印

市穀何やうもあつらふもあつらふ 芳志

相もあつらふもあつらふもあつらふ 山

櫻の木もあつらふもあつらふもあつらふ 方名

龍牛四むすもあつらふもあつらふもあつらふ 紫路

新鳥也二也あつらふもあつらふもあつらふ 名理

そつらふもあつらふもあつらふもあつらふ 七見

筆もあつらふもあつらふもあつらふもあつらふ 天竹

明やうもあつらふもあつらふもあつらふもあつらふ 朝色

葉もあつらふもあつらふもあつらふもあつらふ 在朝

卯蝶の跡もあつらふもあつらふもあつらふもあつらふ 左語

増崎也糖の真味を感ずる事 升冠

高き山を登りて見る事 破束

糖結ぶ事もふたのふたの事 業城

高井の糖ももつてぬ日ぬ日 其子

糖つけし牛も糖すむおや事 方明

ゆきまを登りて見る事 政人

夕雲ももつてぬ日ぬ日 櫻子

高井の糖ももつてぬ日ぬ日 意子

高き山を登りて見る事 糖見

糖の真味を感ずる事 意子

お高ももつてぬ日ぬ日 冥子

あやしくも高き山を登りて見る事 海貞

糖の真味を感ずる事 其坊

高き山を登りて見る事 意子

糖つけし牛も糖すむおや事 升有

高井の糖ももつてぬ日ぬ日 芳有

吹も秋なる小ねをうらむるの月 津浦

夜のはつと五位のつらき〜中 鬼洞

夜は月ひびきとるをききしづつて 登丸

麻の香は秋の入りつゝ夜の月 三夕

おもしろきも秋のよきも秋の 平角

ふもゆるきも秋のよきも秋の 二東

智ふゆきも秋のよきも秋の 百池

涼しきも秋のよきも秋の 秋渙

人よも秋のよきも秋の 吳山

日よも秋のよきも秋の 考川

鳥よも秋のよきも秋の 了那

雲よも秋のよきも秋の 芸門

雲霞も秋のよきも秋の 魯徳

霧のよきも秋のよきも秋の 羽鳥

と秋のよきも秋のよきも秋の 友五

す〜秋のよきも秋のよきも秋の 考雅

しつら〜秋の空〜とあつり空の空 少少

あつら〜中よ〜夕日あつら 以云

あつら〜あつら〜あつら〜あつら 有中

あつら〜あつら〜あつら〜あつら 樹五

あつら〜あつら〜あつら〜あつら 長壽

あつら〜あつら〜あつら〜あつら 春夜

あつら〜あつら〜あつら〜あつら 少人

あつら〜あつら〜あつら〜あつら 杜若

秋の空〜あつら〜あつら〜あつら 飛冠

秋の空〜あつら〜あつら〜あつら 不圖

あつら〜あつら〜あつら〜あつら 大石

あつら〜あつら〜あつら〜あつら 子就

あつら〜あつら〜あつら〜あつら 素十

あつら〜あつら〜あつら〜あつら 乙園

あつら〜あつら〜あつら〜あつら 草堂

あつら〜あつら〜あつら〜あつら 漢々

秋風もあはれとて暮らさるるも 女房

凡小家もあはれとて暮らさるるも 菫志

八重葎もあはれとて暮らさるるも 園使

夕ふもあはれとて暮らさるるも 乙二

大きもあはれとて暮らさるるも 一子

お菊もあはれとて暮らさるるも 五明

存ふもあはれとて暮らさるるも 貞村

うらもあはれとて暮らさるるも 大鼻

眼のまもあはれとて暮らさるるも 梅子

水もあはれとて暮らさるるも 左半

松系もあはれとて暮らさるるも 果飛

お菊もあはれとて暮らさるるも 奇洞

お菊もあはれとて暮らさるるも 石河

笠もあはれとて暮らさるるも 南江

扇子もあはれとて暮らさるるも 希之

花もあはれとて暮らさるるも 権圓

水多き所ありてなりしつらも 藤古
 うきよきよし後れもせし世の悪ん 糸紀
 雲の如くもあやめ日あつては みるる
 うきよきよし鳥ありてうき世の音 禁泉
 雲の移城下は移りてうき世 長閑
 山寺ありてうき世の音 凡化
 うきよきよし世もつらく角田川 春日三
 うきよきよし世もつらく藤原の世 孝賢

うきよきよし世のつらき 桐原 何人
 日あつてうき世の音 西蘭
 うきよきよし世のつらき 升六
 舟ついでてうき世の音 松生
 日あつてうき世の音 斗膳
 門あつてうき世の音 月形
 あつてうき世の音 糸司
 舟ついでてうき世の音 長閑

世に於ては... 東水
 雪に於ては... 午人
 松に於ては... 東水
 山に於ては... 午人
 水に於ては... 東水
 石に於ては... 午人
 土に於ては... 東水
 草に於ては... 午人
 木に於ては... 東水
 花に於ては... 午人
 鳥に於ては... 東水
 虫に於ては... 午人
 魚に於ては... 東水
 獣に於ては... 午人
 人に於ては... 東水

人... 国瑞
 網代... 玉如

信州 仙市 同輯

消印

享味元年夏六月上本

△
五

